

試験報告書

依頼者 日本オーガニックミネラル株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 有機フルボ酸原液 Organic Fulvic Acid Lot# 48052516

表題 殺菌効果試験

2016 年(平成 28 年)09 月 06 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

日本オーガニックミネラル株式会社

2 検 体

有機フルボ酸原液 Organic Fulvic Acid Lot# 48052516

3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。また, 培養後の生菌数測定平板を写真-1~7に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	濃 度	生菌数(/mL)			
			開始時	1分後	5分後	30分後
ジンジバリス菌	検 体	10 %	—	6.0×10^6	1.1×10^6	300
	対 照	—	2.1×10^7	1.2×10^7	5.7×10^6	5.5×10^5

保存温度：室温

対照：精製水

表-2 試験条件

	試験菌	<i>Porphyromonas gingivalis</i> JCM 8525 (ジンジバリス菌)	
試験菌液	試験菌を5%馬脱繊維血液加Brucella Agar (BBL) で35 °C ± 1 °C, 4~7日間嫌気培養した後, 生理食塩水に浮遊させ, 菌数が10 ⁸ ~10 ⁹ /mLとなるように調製した。		
試験液	精製水を用いて調製した検体の10%希釈液10 mLに試験菌液0.1 mLを接種		
保存条件	1分, 5分, 30分(室温)		
対照	精製水		
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈		
生菌数測定	5%馬脱繊維血液加Brucella Agar, 平板塗抹培養法	35 °C ± 1 °C,	5~7日間嫌気培養



写真-1 ジンジバリス菌 対照 開始時
(試験液 0.01 mL)

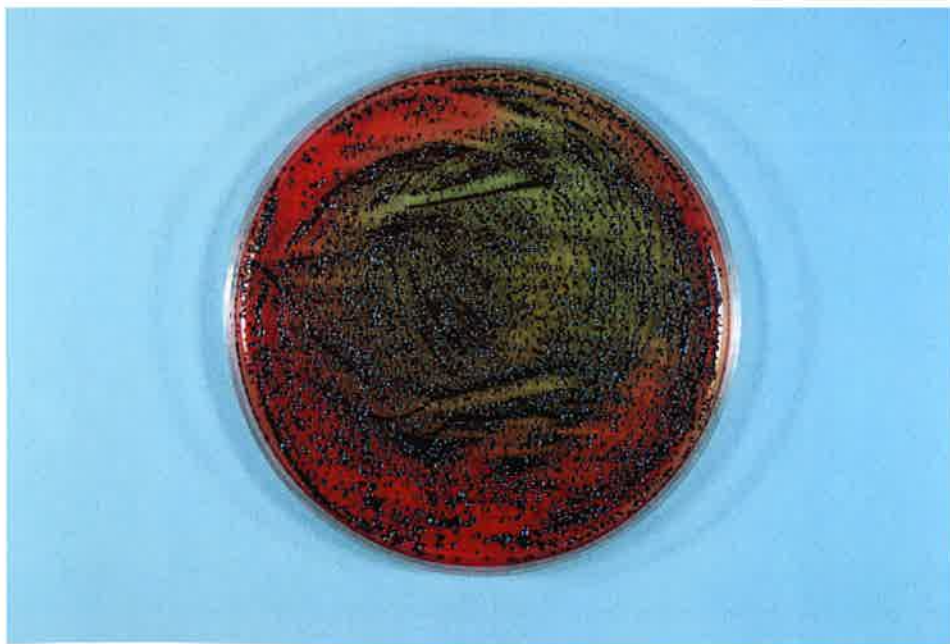


写真-2 ジンジバリス菌 検体 1分後
(試験液 0.01 mL)



写真-3 ジンジバリス菌 対照 1分後
(試験液 0.01 mL)



写真-4 ジンジバリス菌 検体 5分後
(試験液 0.01 mL)



写真-5 ジンジバリス菌 対照 5分後
(試験液 0.01 mL)

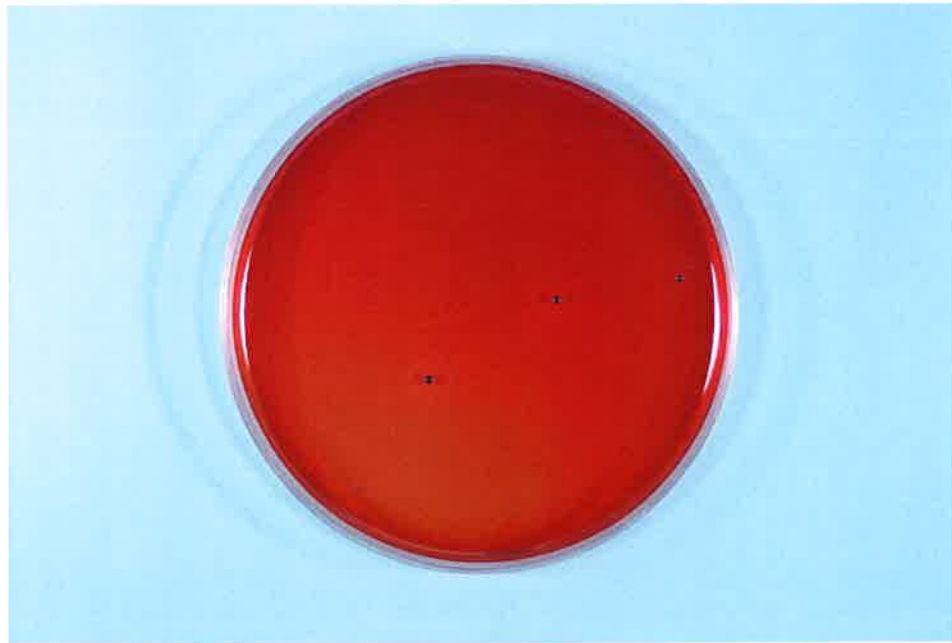


写真-6 ジンジバリス菌 検体 30分後
(試験液 0.01 mL)

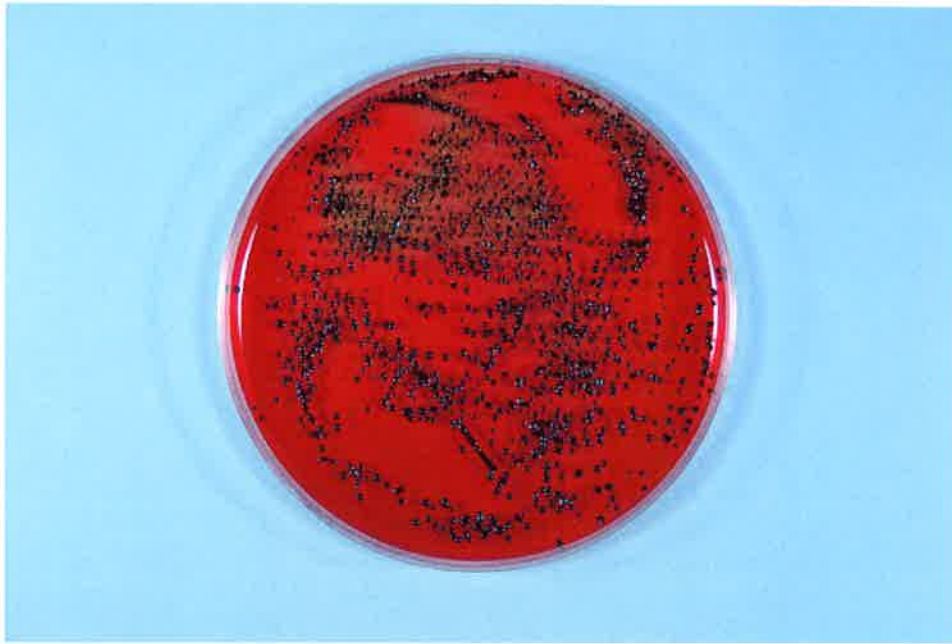


写真-7 ジンジバリス菌 対照 30分後
(試験液 0.01 mL)

以 上